

9 保護者や地域の 理解に向けて

学校と地域とのつながりの重要性が言われている今日、児童生徒だけでなく保護者や地域に向けても「障害特性の理解や適切な対応」について発信する役割を学校は担っています。

「いつ」「どこで」「何を」「どのように」発信するかを、学校全体で共通理解しておくことが、保護者や地域から信頼される学校づくりにつながります。

「特別支援教育に関連して、障害者理解を推進することにより、周囲の人々が、障害のある人や子どもと共に学び合い生きる中で、公平性を確保しつつ社会の構成員としての基礎を作っていくことが重要である。次代を担う子どもに対し、学校において、これを率先して進めていくことは、インクルーシブな社会の構築につながる。」

【 H24.7 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）より抜粋 】

確かめてみよう！

★子どものよさを発信している・・・・・・・・・・・・

★地域や保護者の協力を得られるように働きかけている
・・・・・・・・

★特別支援教育や人権にかかわる内容を発信している

★地域との交流の機会が確保されている・・・・・・・・

★保護者や市民向けの研修会の案内を積極的に行っている
・・・・・・・・

(1) 基本的な考え方

子どもたちには、学校と家庭という大きな二つの居場所があります。この居場所を支えているのが、地域という基盤です。子どもたちの健やかな成長のためには、地域の理解は不可欠なものです。

平成23年度に自閉症教育理解・啓発パンフレット『自閉症にやさしいまち、横浜～認めよう、見つめよう、育もう～』（自閉症教育の手引きⅠ）を教職員向けに作成しました。自閉症の特性や学校での指導について保護者や地域の方にも理解いただくため、教育委員会ホームページに掲載しています。

(2) 学校の取組

【ボランティア事前研修や打ち合わせ】

学校は、数多くの地域ボランティアの方々にご協力いただいています。ボランティアの方々が、子どもたちの特性を正しく理解して接していくことは、ボランティア自身だけでなく、子どもたちにとっても、保護者にとっても、学校にとっても安心できることにつながります。

行事等でボランティアをしてくださる方に、事前に研修会や打ち合わせを実施します。その中で、一般的な障害特性だけでなく、学年や学級の様子と併せながら特別な支援を必要とする児童生徒への対応について、保護者の了解を得て話をします。

(例)

- ・後ろから声をかけても気付きにくいので、顔を見て話しかけてください。
- ・たくさんのことを一度に伝えても困ってしまうので、大事なことを一つずつ伝えてください。
- ・話しかけてもうまくいかないときは、文字や絵にしてください。
- ・用意した写真のカードを活用してください。



【学校説明会や懇談会等での発信】

学校の教育目標や方針について説明をする中、特別な支援や特別な支援を必要とする児童生徒についても触れることがあります。学校側が良かれと思うことと当事者やその家族が望んでいることは、必ずしも一致しません。必要に応じて事前に発信内容の確認をしたり、誤解の無いように言葉を選んだりなどの配慮をすることが必要です。

【PTAの学習会】

外部講師や特別支援教育コーディネーター等から、発達障害を含めた様々な支援を必要とする児童生徒について話を聞く機会を設ける等、理解を深められるように取り組んでいます。

【特別支援教育コーディネーターだより等】

各学校には、特別支援教育コーディネーターがいます。特別支援教育に関する情報を「特別支援教育コーディネーターだより」等として、保護者や地域に向けて発信している学校もあります。

【学校行事を通じた発信】

土曜参観、学校を開く週間、運動会等の行事を通し、学校は保護者や地域に学校について知ってもらう機会を設定しています。来校者は、その中で教職員のかかわりや児童生徒同士のかかわりを見ることで、様々な特性のある子どもたちへの理解を深めます。

行事は、学校からの『いろいろな子どもがいる。一人ひとりを大事にしている。』という発信をする機会にもなっています。

- (例)・運動会で、学年やレースによってホイッスルでスタートする
・複数のプリントの用意

(3) 教育委員会の取組

教育委員会では、保護者や市民向けに障害理解のための講座を開催しています。

【保護者教室】(平成 25 年度)

○発達障害に関する講座

「発達障害児への支援～子どもたちの姿から学んだもの～」

「地域資源の活用と子どもへの支援

～地域活動ホームでの活動を通して～」

「将来の自立に向けて 保護者の立場から」

○難聴・言語発達に関する講座

「学校とのかかわり方

～言葉の発達・発音に課題のある児童生徒～」

「吃音児童生徒への家庭での支援」

「難聴児の聞こえとコミュニケーションについて」

【学習支援のための発達障害理解研修講座】(平成 25 年度)

- 1 開講式・横浜市の特例支援教育
- 2 子どもの発達・子どものとらえ方
- 3 支援方法の理解
- 4 学習支援と保護者のニーズ
- 5 思春期・青年期をうまく迎えるために
- 6 学校との連携の仕方①
- 7 学校との連携の仕方②
- 8 障害特性に応じた支援の仕方①～自閉症を中心に～
- 9 障害特性に応じた支援の仕方②～ADHDを中心に～
- 10 障害特性に応じた支援の仕方③～LDを中心に～
- 11 支援の実際①～学習環境・教材準備を中心に～
- 12 支援の実際②～支援員の変容を中心に～
- 13 支援の実際③～子どもの変容を中心に～
- 14 よき支援者となるために・閉講式



(4) 放課後の居場所から

放課後キッズクラブ、はまっ子ふれあいスクール、放課後児童クラブ(学童保育)の放課後三事業のスタッフも、自閉症等の特性や支援方法について研修を受ける機会があります。放課後の居場所で過ごす子どもたちが安心して活動できるためには、連携が重要です。学級の中で納得できない出来事があると、その気持ちを切り替えられずにいることもあります。必要に応じて、その日の子どもの様子を伝えたり、日ごろから話ができる関係を構築したりすることが望まれます。

(5) 地域の中で

横浜市では、障害の有無にかかわらず、共に地域で安心した生活を送れる社会の実現を目指し、市民の障害に対する正しい理解を深めるための様々な取組を展開しています。

自閉症や知的障害がある人の中には、ことばだけでなく、分かりやすい絵記号や写真等を用いることで、コミュニケーションがスムーズになる人もいます。レストランの写真入りのメニュー、絵地図等、分かりやすく工夫されたものが増えてきています。コミュニケーションボードは、誰でも簡単に利用できるように作られており、地下鉄の駅などで見かけることがあります。

コミュニケーションボード 災害 Disaster

「具体的に」「ゆっくり」「やさしく」
話しかけてください

たべる Eat	のむ Drink	ねる Sleep
はい Yes	いいえ No	トイレ Toilet
移動する Move	待つ Wait	手伝って Help

黄色のバンダナは「言葉してほしい」・緑色のバンダナは「言葉できる」というサインです。

コミュニケーションボード 災害 Disaster

あなたの？
What is your?

名前 Name	住所 Address	電話番号 Telephone Number
身体障害者読書 身体障害者読書	本の郵便 本の郵便	身体障害者読書 身体障害者読書
身体障害者読書 身体障害者読書	身体障害者読書 身体障害者読書	身体障害者読書 身体障害者読書
身体障害者読書 身体障害者読書	身体障害者読書 身体障害者読書	身体障害者読書 身体障害者読書

いいたいところはどこ？
Where do I want?

身体障害者読書 身体障害者読書	身体障害者読書 身体障害者読書	身体障害者読書 身体障害者読書
身体障害者読書 身体障害者読書	身体障害者読書 身体障害者読書	身体障害者読書 身体障害者読書

横浜市立図書館センター連絡先

支店	建物	区	連絡先
東区	470-0770	金沢	760-0940
神奈川	411-2714	西区	540-0930
青	330-0887	南区	590-2633
赤	224-0785	中区	370-2653
青	743-0245	南区	340-0314
赤	347-0450	南区	340-3003
緑上野宮	334-0288	南区	334-5003
緑	364-0720	南区	330-2817
緑下	700-2416	南区	302-0710

横浜市立図書館センターの連絡先

支店	建物	区	連絡先
東区	470-0770	金沢	760-0940
神奈川	411-2714	西区	540-0930
青	330-0887	南区	590-2633
赤	224-0785	中区	370-2653
青	743-0245	南区	340-0314
赤	347-0450	南区	340-3003
緑上野宮	334-0288	南区	334-5003
緑	364-0720	南区	330-2817
緑下	700-2416	南区	302-0710

避難場所のみなさんをお願いしたいこと

<p>何が困っているみたい…</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 困っていることをうまく伝えられない人もいます。 ● 表示が読えない人や音が聞こえない人もいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的にゆっくりと、伝わっているか確かめながら話してください。 ● コミュニケーションボードを使ってみてください。 ● 実物を示しながら聞いてみてください。 ● 大切な情報を伝えるときは、文字と絵、ことばの3つの方法を用いてください。
<p>並ぶことや待つことが苦手な人がいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● その場の様子から判断することが苦手な人もいます。(みんなが並んでいるから自分も並ぶなど) ● 並ぶことや待つことが苦手で、待っていることと不安になる人もいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 別の後ろへ案内してここに並んでくださいと伝えるなど、具体的な行動を示してあげてください。 ● 場合によっては扉を揺ってあげてください。
<p>通路を確保してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 狭い通路や入り込んだ通路、段差により通行が妨げられてしまう人もいます。 ● 通行が不安定で転倒しやすい人もいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 体育館の通路などは、厚い物が通れる幅(最低90cm)以上は確保してください。また、通路には物を置かないでください。 ● 誘導や介助が必要かどうか、声をかけてみてください。
<p>気になる行動をしているけど？</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 状況の判断がつかず大きな不安を抱いたり、パニックをおこしやすい人もいます。 ● 人ごみや大きな声・音、まぶしい光などが苦手な人もいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 気持を落ち着かせるための行動がもしれません。しばらくの隠れ場所を確保してください。 ● 騒音が大きいときは、体育館以外の教室など静かな場所に移動し、落ち着くまで見守ってください。

※コミュニケーションボードは、「セーフティネットプロジェクト横浜」が作成しています。
 ※「セーフティネットプロジェクト横浜」は、平成17年に横浜市内の障害に関係する14の機関・団体と協働して立ち上げ、地域の様々な関係機関への研修等、障害理解を進める普及啓発活動に取り組んでいます。
 ※「災害」用のほかに、「救急」用、「お店」用 等があります。

<http://www.yokohamashakyo.jp/siencenter/safetynet/cboard.html>